

# 令和7年度（2025年度）第2回東海市まち・ひと・しごと創生推進委員会会議録

議題 第3期東海市総合戦略の策定について  
(1) 総合戦略の概要及び第3期東海市総合戦略の策定方針について  
(2) 第3期東海市総合戦略（案）について

日時 令和7年（2025年）12月23日（火）午前9時30分～午前11時

会場 東海市役所301会議室（3階）

出席者 委員：千頭聰、谷口庄一、田中明日代、服部和子、大西彰、  
酒井清明、匂坂俊弘、神野妃代、森本奈帆子  
事務局：成田企画部長、中島企画政策課長、稻葉統括主任、野村主任

欠席者 木下俊春委員

公開の可否 公開

傍聴者数 0人

## （内容）

### 1 開会

### 2 議題

- (1) 総合戦略の概要及び第3期東海市総合戦略の策定方針について
- (2) 第3期東海市総合戦略（案）について

### 3 その他

- (1) 今後の予定

主な質疑等は以下のとおり

谷口委員：

東海市への転入理由は、製造業への就職に関連する理由が大きく占めていると分析しているが、将来的に産業構造の転換等があった場合に今の予測通りに人が残るか不透明である。さらに未婚率も高まっているだけでなく、子どもを持たない夫婦も増えているため、人口が急落する可能性を見据え、危機感を持つべきである。

事務局

ご指摘の通り、製造業をはじめとした企業への就職や転勤で転入し、その後結婚・定住することが多く、人口維持の要因としても大きい。長期的なまちづくりを見据

えるうえで、産業構造の転換をはじめとした人口減少につながる要因も踏まえながらまちづくりを進めていく。

酒井委員：

東海市の人口を男女比で見ると女性が少ない。これは臨海部企業の影響があると思うが、全国的には女性の方が多い。転出している方の男女比はどのようか。転出の比率が女性の方が多いのであればその対策が必要である。

事務局：

市の動向は把握していないが、県の資料によると、県全体で女性が関東圏に転出している傾向があることを把握している。

酒井委員：

愛知県はものづくり産業が盛んであるため、男性が多く転入し、女性が多く転出しているように感じる。女性の働きやすさの確保など、女性に対する施策を考える必要がある。

千頭委員：

県の動向だけでなく、市の動向も分析しておく必要がある。

人口動態においては出生数がどんどん減っているが、将来人口推計においては人口が増えることが示されている。将来人口推計だけを見て、楽観視しないよう注意が必要である。

田中委員：

県内における転出入状況において、0～4歳の転出が多くなっている理由は。

事務局：

0～4歳の子どもを持つ家庭が住宅を取得する際に市外に転出してしまうと分析している。

田中委員：

東海市での出産はほとんど費用がかからず、待機児童も少なく支援が手厚い。しかし、データを見る限り、産んだら出でていってしまうという印象を受けた。ここに定住につながるヒントがあると思う。小学校に入学する年代になると転出も少なくなっているため、転出超過となっている0～4歳及びその親世代に対する施策が必要であると感じる。

森本委員：

高齢者が増えていると感じるが、市全体の状況は。

事務局：

全国的な動向と同様に高齢化は進んでいる。特に、65歳以上の高齢単独世帯や高齢夫婦世帯が増加していることが今後の大きな課題であると捉えている。

千頭委員：

人口ビジョンがどのように重点戦略に反映されているのか。

事務局：

人口ビジョンにおいて分析した課題をもとに4つの重点戦略を構築している。

千頭委員：

0～4歳の転出対策や20～24歳の定着など具体的にどう対応するのか。

田中委員：

東海市内で若者が過ごせる場所がない。また、市内においてもベビーカーを押している姿を見かけることがあまりない。気軽に外に出られる場所がなく、車で市外に出ることが多い。

事務局：

太田川駅広場を中心を開催しているイベントや、現在進めている太田川駅西地区の開発による日本福祉大学の拡大や商業施設等の進出に期待している。市民アンケートにおいては概ね満足度が高い結果が出ているが、今後も若い世代が魅力を感じるまちづくりの必要性を感じている。

神野委員：

買い物や友達とのランチなど市外に行くことが多い。若い世代にとっても、魅力あるまちとなってほしい。

大西委員：

重点戦略1のKPIである「子育てしやすいまちであると感じている18歳以下の子どもを持つ人の割合」「自宅周辺が住みやすい場所（所）であると思う人の割合」は高水準であり、住んでいる方にとっては住みやすいものの、転出しているということは、住む場所がないと考えられる。重点戦略2に記載されている、道路や駅周辺の面的整備と併せてことで人口減少に結びつくと感じる。

また、今や外国人住民が東海市の活力の下支えになっていると感じているため、重点戦略3の方向性において外国人住民に関係する記述があるとより整合性が出るのではないか。

事務局：

住宅施策については重点戦略1として位置づけることとしており、外国人住民への支援の取り組みについても重点戦略の方向性に包含しているが、もう少しわかりやすいように各重点戦略の観点の記載については整理を行う。

千頭委員：

第7次総合計画からの抜粋であるため仕方ない部分もあるが、重点戦略の方向性に取組内容が記載しており、主な取り組みには目指す方向のみで具体的な実施内容が記載されていないと感じる。

事務局：

戦略には事務事業まで記載していないものの、重点戦略の評価の際には主な取り組みに対する事務事業を明示して評価していくことになる。

服部委員：

子どもに手厚く、高齢者が取り残されている印象を受けた。

匂坂委員：

多世代交流として、子ども行事に高齢が加わる形で、地域行事などを共同で実施できるものがあればにぎわいが生まれると考える。

谷口委員：

人口分析が重点戦略や具体策につながっていないという指摘もあったが、総合計画との完全な一体化は難しいと考える。総合戦略は、実行プランとして位置づける観点も必要ではないかと考える。

千頭委員：

庁内においても、各部署において重点戦略を推進できる体制を検討していただきたい。